



世界で活躍する県人会員と留学生OB、大分県関係者の皆さま方に、大分の「今」をお伝えします。

《Vol. 85》2020年3月発行

なつかしい我が故郷～大分ふるさと写真館～  
【大分市／別府市】



(大分市)  
今市石畳



(大分市)  
吉野梅園



(別府市)  
別府ローブウェイ



(別府市)  
別府大分毎日マラソン

## マレガ・プロジェクト関係者が来県

2月10日から5日間、マレガ・プロジェクトの海外若手研究者のリーダー育成を目指す研修が大分県立先哲史料館で実施されました。

参加者は、先哲資料館と調査・研究を通じて交流があるローマ大学サピエンツァから准教授1名と大学院生2名、ナポリ東洋大学から大学院生1名の計4名。日本への留学経験もあり、日本の文化や古典を研究している方々です。

研修では、「大分のキリスト教史」を概観し、「ペトロ岐部」の講義が行われました。これは、今から400年前の1620年、豊後国国東郡(現・大分県国東市国見)のペトロ岐部がローマに到着して司祭に叙階されたという歴史を研修生に知ってもらうために取り入れられたものです。

その他、研修生から研究状況の報告、マレガ文書と大分に遺るキリシタン関係文書をふんだんに用いた講義と演習、また、キリシタン関係遺跡や臼杵城下などマレガ文書に関する現地研修も行なわれました。

研修の最後には、研修生から「ぜひ今後も継続して学術・文化交流を」との感想がありました。

また、研修に先立ち、知事を表敬訪問。知事からは、「この機会に大分の歴史と文化の魅力に触れることと、この新しい学術交流が未来へと繋がることを期待する」との激励があり、これに対し研修生からは「とても光栄です」と感激した様子でした。

今回の研修が日本・大分とイタリア・バチカンの学術交流の発展に繋がっていくことが期待されます。



知事表敬訪問



研修の様子

### マレガ・プロジェクトとは？

マリオ・マレガ神父(1902～1978)が戦前に大分県で収集し、戦後バチカンに送った江戸時代の豊後キリシタン禁制関係資料(マレガ文書)が2011年にバチカン図書館で発見されました。マレガ・プロジェクトとは、この一万点にも及ぶ史料の日本とバチカンの共同調査研究事業のことです。

## 第1回日韓友好のつどいin OITAが開催されました

2月8日、NPO法人日韓芸術文化交流会(印成銀理事長)が、大分市のiichiko総合文化センターで「第1回日韓友好のつどいin OITA」を開催しました。

今回のイベントには、2001年1月に東京の新大久保駅でホームから転落した客を救おうとして犠牲になった韓国人留学生の李秀賢さんを題材にした「あなたを忘れない」など3本の映画が上映され、約100名が参加しました。また、李秀賢さんのお母様、辛潤賛さんも参加し、悪化している日韓関係への心配や民間交流の大切さなどについて講演されました。

前日には辛さんはじめイベント関係者が県庁を訪れました。印理事長から「日韓関係が悪化し、大分空港の直行便が運休するなど厳しい状況であるが、民間レベルでの交流を増やしていくことで相互理解を図っていききたい」との言葉に対し、中島企画振興部長からは、「日韓関係がよくないと言われているが、個人レベルでは気にせずにつき合っている人も多く、個人旅行客は県内を観光してくれている。今回のイベントのような草の根交流が重要と思う」との発言がありました。



前列左端が辛潤賛さん、後列左端が印理事長

## 新たに9名を海外めじろんサポーターへ任命しました！

### ブラジル移住者子弟研修生

2019年4月から日本語研修生として、ブラジルのサンパウロより来県した石井 マルヴィン マサユキさんと志方 カーレン 利香さんの2名が、約1年間の研修を終えて帰国しました。

帰国に際し、磯田企画振興部審議監がお二人をめじろん海外サポーターに任命しました。

大分大学で機械工学や建築学を勉強した2人ですが、週末には県内外の様々な場所を訪問し、広く日本の文化に触れることができたとのこと。「大分に来ることができてよかった。将来、機会があればまた大分を訪れたい」と話してくれました。

### APU卒業生 (マレーシア)

マレーシアを訪問し、APU卒業生3名をめじろん海外サポーターに任命しました。

ティン リー ティー(Ting Lee Tee)さんは、APU卒業後日系企業に勤務され、現在は在マレーシア シンガポール観光局にて、マレーシアからシンガポールへのインバウンドを担当しています。



左から、磯田審議監、志方さん、石井さん、後藤大分日伯国際交流協会理事長



ティン リー ティーさん

カイルル シャリル ビン ハムザ (Khairul Shahril Bin Hmzah)さんは、マレーシア政府勤務後、ハラルに関する認証取得支援やコンサルティングを行う現在の会社に入社し、共同経営者として会社を運営されており、これまでに700件近いハラルの認証支援を行ってきたとのことでした。



カイルル シャリル ビン ハムザさん

ジェイクン タン ギー チュン (Jycan TAN Ghee Chung)さんは現在在マレーシア オーストラリア大使館に勤務され、領事事務を担当されています。難民問題に興味があり、研究をしていきたいとのことでした。



ジェイクン タン ギー チュンさん

### APU卒業生 (インドネシア)

マレーシアにて3名を任命した後、インドネシアを訪問し、APU卒業生4名をめじろん海外サポーターに任命しました。

ジョニー ローン (Jonny Lone)さんは、モリンガ(熱帯に生息する栄養豊富な植物)に関する製品の製造・販売を行う会社を起業・経営され、各国にて販売活動を行っています。



左二人目から、ジョニーさん、マイケルさん、クリスタルさん、マリオさん

マイケル アリフ グナワン (Michael Arief Guawan)さんはイベントの企画等を行う会社を設立され、様々な企業・団体等のイベント・展示会等のサポートをされているとのことでした。

クリスタル ウィビソノ (Crystal Wibisono)さんは、日系企業の合弁会社に勤務され、また、APUインドネシアのチャプターリーダーとしても活躍されています。

マリオ アンドロエッティ クロイワ (Mario Androetti Kuroiwa)さんは、石油関連会社に勤務後、船舶の潤滑油等を扱う会社を共同で経営されるとともに、コーヒー豆の販売やコーヒーショップも経営されています。

任命された皆様には、これから母国と大分の架け橋としてご活躍されることを期待しています。

## インドネシア大分県人会を訪問しました。

インドネシア大分県人会の吉渡会長、小柳津(おやいづ)さんとお会いし、近況等について懇談を行いました。吉渡会長は、現地にて人材の送出し等の仕事をされ、また、小柳津さんは現地日本人向け等に不動産業賃貸業等に従事されているとのことでした。また、現地県人会は、年に数回、大分にゆかりのある関係者で集まり懇親を深めているとのことでした。今後とも、機会がありましたら各国の県人会におじゃましたいと思っております。



右端：吉渡インドネシア大分県人会会長 右から3番目：小柳津さん

## 市町村からのお知らせ【九重町】

九重町内で唯一の中学校となるこのえ緑陽中学校と台湾高雄市の2つの中学校との交流事業が行われました。この事業は2016年3月から準備を重ね、2018年に高雄市において、はじめて生徒同士の交流が実現しました。2019年10月には高雄市の大灣国民中学と鳳山国民中学から計16名の生徒が来町、同年12月には本町より7名の生徒が両校を訪問しました。

10月の来町では、台湾の生徒は農家民泊で日本の農村文化や観光を体験しました。また、学校では共通の言語である英語を使ってレクリエーションや調理実習をしながらコミュニケーションをとりました。

12月に実施した台湾訪問事業では、2校それぞれで交流を実施。英語での学校紹介や町の紹介、また家庭科の授業で台湾のお菓子作り、技術の授業で木製の笛作りを行い、台湾文化を肌で感じることができました。

また、今回の台湾訪問では今後も継続的な交流を約束する姉妹校提携をそれぞれの学校と結びました。今後は直接の交流の他、インターネットを活用した交流方法などを検討します。この交流が生徒の国際感覚を養い、視野を広げることで将来幅広く活躍する人材の育成を期待します。

【九重町 教育振興課】





**Pick Up!** 大分の「今」

# 県内の出来事（2月）



## 加油（頑張れ）！大分から中国へ 支援の輪

世界中で新型コロナウイルスが流行するなか、県内の各市町村・団体が交流のある中国の都市などへ支援を行いました。

大分市は、友好都市である湖北省武漢市にマスクや医療用防護服を送るとともに、支援金の募集を始め、武漢の中学生と交流のあった大分市明野中学校の生徒は、支援金を集め、市役所に届けました。

佐伯市は、友好都市である河北省邯鄲市にマスクを、豊後大野市は友好都市湖北省荊州市に医療用マスクなどを、それぞれ送りました。

民間団体では、大分華僑華人会は武漢市を応援するチャリティーイベントで、募金を募り、集まった浄財で武漢児童病院に子供用マスクを送付、また、日中友好協会大分支部は駐福岡中国総領事館に支援物資を届けました。



## 【12日(水)】 ミャンマー人女性 豊後高田市職員に

豊後高田市は海外からの安定した労働力確保のため、経済発展の進むミャンマーから外国人技能実習生を受け入れようと、日本語の堪能な同国出身のニ・ニ・ウィンさんを嘱託職員として採用しました。彼女は過去に技能実習生として3年間名古屋の会社に勤務した経験があり、今後はミャンマーの実習生送り出し機関との交渉を担うとともに、実習生の生活を支えていくこととなります。



## 【20日(土)】 大分県産乾シイタケ新ブランド「うまみだけ」発表！

乾シイタケ離れが進む中、消費量回復を目指し、県は大分県産乾シイタケの新ブランド「うまみだけ」を発表しました。これまでは形状による分類（「冬菇（どんこ）」「香菇（こうこ）」「香信（こうしん）」）で販売されていましたが、品種ごとに香りや歯ごたえが異なる点に着目し、特徴が際立つ4品種を統一ブランドとして商品化しました。「うまみだけ」シリーズはそれぞれ、①やさしい香りの「ゆう次郎」、②歯応え抜群「にく丸」、③肉厚しっかり「115」、④柔らかマイルド「とよくに」の4品種です。カレーやギョーザ、炊き込みご飯など料理に合わせて使い分けができるよう、商品には特徴が図表で示されています。世界で「UMAMI」が注目されている今、海外展開も視野に入れています。



# From our Reporters

## 県の国際交流員が、旬なOITA情報をお届けします。



金 眞雅  
(Kim Jina)

念願のイチゴ狩りに国際交流員のみんなと行ってきました！  
農園のハウスに入ると甘い香りが漂っていて、真っ赤に熟したイチゴが垂れ下がっていました。まずは農園の方にイチゴの掴み方と美味しい食べ方を教えてもらい、早速40分間の食べ放題コースを始めました。この農園には大分県産のベリーツなど6種類のいちごがあり、味比べができます。ちなみにイチゴは先の方に甘みが集まっているので、ヘタの方から食べるとより甘く感じるそうです。大きくて真っ赤ないちごを頬張ると口いっぱい甘みが広がりました。採れたてのイチゴはやはり新鮮でおいしさも格別でした。朝ご飯抜きで来たので、40分の間食べ続けた結果、なんと45個も食べてしまいました。モトもしっかり取れたし、イチゴはしばらくいいかなと思います。



シェ シンラン  
(Xie Xin Lan)

大分城址公園の「仮想天守イルミネーション」が、いよいよ、2月14日に消灯イベントを迎えました。1644年に幕府が府内藩に書かせた「豊後府内城之絵図」（正保城絵図）を参考にし、金属パイプで城の骨格を再現したイルミネーションで、点灯期間は元々13日間しか計画していませんでしたが、住民から再延長を望む声が多く、結局2年間以上も展示されることになりました。この夜に浮かぶ城は近所で勤めている自分にとっては道標のような存在だったので、最終日の二日前の夕方に記念写真を撮りに行きました。イルミネーションがなくなるのは名残惜しいけれど、大分城址公園がこれからどうなるか楽しみにしています。



ピョウ センテイ  
(Miao Zhanting)

2/2（日）に大分市のガレリア竹町ドーム広場で、大分華僑華人会が武漢を応援するチャリティーイベントを開催しました。開会式では大分市の佐藤市長と中国駐福岡総領事館の康曉雷総領事代理の挨拶の後、参加者全員で「武漢加油！（武漢頑張れ！）」とエールを送りました。イベントにはお年寄りによる太極拳や若者の太鼓の演出があり、大学生の司会者につき中日の早口言葉や子どもたちが謎をあてる部分もありました。市民も大勢集まってきて、参加者は武漢を支援したいという気持ちが実感できました。特に子どもたちが中国・武漢を応援する姿に心を打たれました。会場では、募金コーナーが設置され、参加者等が募金に協力していました。また、大分グルメの焼きそばやたこ焼き、八百屋・青果もあり、その売上額の一部も寄付するそうです。なお、2/12（水）に、華人会は今回集まった募金でマスクを購入し領事館を経由して早速、武漢児童病院に送ったそうです。



県内の最新の観光情報はこちらから  
ご覧ください！

(ツーリズムおおいたHP)

<https://www.visit-oita.jp/>

### 📧 話題提供のお願い！

県人会の活動(懇親会等)や留学生OBの近況など、世界中の大分県関係者に紹介したい話題をお寄せください！(様式は任意です)

【記事提供/お問い合わせ先】国際政策課 担当:白岩【Mail】 [a10140@pref.oita.lg.jp](mailto:a10140@pref.oita.lg.jp)